

酒類行政の基本的方向性 ～主に産業振興の観点から～（概要）

【国税庁の使命】「酒税の適正かつ公平な賦課及び徴収」「酒類業の健全な発達」

酒類業界の現状

国内市場の状況

国内市場は、中長期的に縮小。他方で、清酒の出荷金額単価上昇がみられるなど、高付加価値化の動きも。

酒類輸出の状況

2012年以降、9年連続で過去最高を記録。清酒やウイスキーの米国・中国向け輸出が全体を牽引。

酒類業界の主な課題と国税庁の取組

課題

商品の差別化・高付加価値化等

海外市場の開拓（輸出促進）

技術の活用と人材の確保等

中小企業支援

免許制度等の適切な執行

コンプライアンスの確保

公正な取引環境の整備等

酒類業の振興

▶ ブランド化推進事業

▶ 酒類業構造転換支援事業（新商品・サービスの開発）

▶ 地理的表示（GI）制度の活用

▶ 表示基準の周知・見直し等

▶ 輸出拡大実行戦略の推進

▶ 酒蔵ツーリズムの推進

▶ 日本産酒類輸出促進コンソーシアム

▶ 展示会出展、バイヤー招へい、商談会

▶ 国際交渉

▶ 酒類業構造転換支援事業（ICT技術の活用）

▶ 日本酒等のユニークな無形文化遺産登録に向けた取組の推進

▶ 酒類総合研究所による技術支援

▶ 業界団体との連携

▶ 中小企業向け施策の情報提供（関係省庁・機関、地方自治体等との連携）

▶ 技術相談等の技術支援

▶ 酒類の製造及び販売業免許の審査等

▶ 酒類製造場・販売場の実態把握

▶ 酒類業組合の監督

▶ 適正な表示、品質・安全性の確保

▶ 酒類の取引状況等実態調査

▶ 「酒類の公正な取引に関する基準」の見直し

▶ アルコール健康障害対策推進基本計画（第2期）の推進

▶ 20歳未満の者等の飲酒防止対策

国税庁の取組